

18/2/14 天守閣部会終了後、西野所長ぶら下がり（名古屋市民オンブズマン作成メモ）

西野所長：謝罪や撤回を石垣部会が求めていたのは確か。

記者：市長が瀬口座長に謝罪と撤回を求めて会っていた事実はあるのか

西野：市長はそういう事実、要は石垣部会が石垣の安全性を考えていないということを瀬口座長が話されたと言うことであれば、撤回を求めたいと考えてその場に臨んだ。実際に話した中で、瀬口座長はそういうつもりはないというお話ですので、市長としてはそれであれば、丁寧な説明をお願いします。そういうふうなしましたので、その話の中で具体的に謝罪撤回を求めるところまでは至っていない。そういうことまではしていない。

記者：面会したのは事実ですか

西野：面会したのは事実です。

私どもの理解としては、そういう状況を石垣部会は謝罪撤回を市長が求めたと受け止めていおりますが、瀬口座長は具体的に撤回を求められているわけではないので、そういう事実はないとおっしゃっております。

記者：石垣部会の方は、石垣部会が謝罪撤回を求めたということを踏まえて再開したのではないのでしょうか。

西野：謝罪・撤回を求めたというところは、どういう風に捉えるかと言うことですが、まあ、市長はそういうことが事実上確認出来れば

記者：石垣部会としては謝罪・撤回を求めたという認識だと思っておりますが

西野：はいはい

記者：それに関しては支障が出る気がしますが

西野：市長は事実だとすれば謝罪撤回を求めるという意思で会見に臨んだというのが事実ですので、それをもって石垣部会は市長は謝罪・撤回を求めた意思があったということをつまえて評価したのではないかと思いますけど
若干のニュアンスの違いだと思います

記者：それは石垣部会にはきちんと説明したんですか？そういう風にやろうとしたけれども、はっきりとは言えていません

西野：石垣部会にはそのときの状況は12月18日にお話ししたときにお話しはしているつもりであります

記者：今日瀬口座長がこういう発言が出ても「それはそういうことなんですね」と向こう側は理解するんですね

西野：私どもは今までの話し合いの中で、そういう風にやっていたという理解です。

記者：有識者からも、一般の方からも市のやり方に対してきちんとやるべきだという発言がでたが

西野：石垣部会の情報を要望も含めてお話しすべきであったのではないかというご意見であったと思いますので、踏まえて進めていきたい。今日天守閣部会に望むにあたっては、あくまでも石垣部会として我々に対してこういう姿勢でやるという話しであったと思いますので、天守閣部会で報告することでもないかなという判断で、今日のは上げなかったと言うことでございます。

記者：今日の議事の中で瀬口座長と石垣部会が直接話し合えばよいのでは無いかということもでていましたが、そのあたり市として対応するつもりはありますか？

西野：一応まあ今まで私どもの方に石垣部会の方から、石垣部会、瀬口座長から、そういう話しがあればそういうことをすべきだと思いますが、市がイニシアチブを取ってそういうことは考えておりません。

記者：今市のスタンスとしては瀬口座長発言は片がついたと考えていますか？

西野：そうですね。市は一応これについては一定の経過を経てここに至っていますので、なかなかなんといいますか、石垣部会は今後ともさらに謝罪・撤回を求めたいということがありますので、そういう意味では片がついたとまでは言えませんが、今一定のところであって、今後進展するかどうかはわからないというところです。私どもはそれはそれとして、各部会の本来お願いしていくべき事をですね、お願いし、まあ御意見ご指導いただい

て、そういう風に思っているところです。

記者：引き続き求めていくというのは、何を求めていくのか

西野：石垣部会は、瀬口座長の発言を引き続き求めていきたいので、そういうことを市に対してそういうことを気持ちでいると言うことを伝えて、できれば市から伝えて、できれば答えて欲しい、そういうお考えだろうというふうに思いますので、きょう私がお答えしたのも、その市はお考えだということについては、私どももそう言われてますから、私どもはお伝えしていく。名古屋市はあくまでもどちらが正しいとか間違ってるとかですね、そういうふうなことは言えるというふうに思っておりませんので、あくまでもお伝えしているだけです。そういう風に思います。

記者：でも市長まで会いに行かれて、瀬口座長はそんな認識なかった、と突っ返しているから、この先謝罪するとか発言撤回するとありえないことですよ。

西野：ちょっと私が言うのはあれですけど、それは、市長が実際に確認して先ほど申しましたように十分そういう趣旨ではないというふうにはお話をされていますので、それは瀬口座長のはっきりとした意思だろうというふうには認識しています。

記者：石垣部会はそう考えていないので、こじれるとまた止まりますよ。

言い逃れしているとしか聞こえない

西野：まあ、難しいですが、どういうふうにとるかということは、なかなかね、我々としては、そういうお話をずっとしていくつもりです。

記者：他の委員もおっしゃられていましたが、やっぱり石垣と天守閣で合同部会、やるべきではないか。なかなか関係がうまくいかない

西野：10月にもそういうお話をいただいて、ただ、今回の石垣部会のその後のご発言や今回いただいた文書の中で、あくまでもやっぱり石垣の保全ですね、それはやっていく、まず行くんだけど、いわゆるこの天守閣整備とはやっぱりちょっとその一線を、というようなご発言としてあるものですから、そういう意味では、なかなか實際上難しいんじゃないかなというふうに今認識をしております。今の石垣部会がそういうふうにおっしゃってる以上はなかなか難しいかな

記者：石垣部会と天守閣部会の座長が結果的に意見が大きく異なり反目している中でも天守閣木造復元スケジュール自体には影響はでないと考えているか？

西野：部会の状況と実際のプロジェクトの進行とは必ずしもリンクしないと思いますので、そういったことがもとになって、実際調査が遅れて、今日は基本計画の一部ですが、基本計画をつくるのが遅れていく、そういうことが生じれば、なかなか進行が難しくなりますけれども、今のところはそういう状況には至ってないとか。そういう認識です。